

# 第3次福岡市食育推進計画 目標別シート

目指す姿	食育に関心を持っている
------	-------------

具体的な目標値	① 食育に関心を持っている市民の割合		
成果指標等	策定時 (平成27年度)	現状値 (令和2年度)	目標値 (令和2年度)
	77.9%	72.2%	90%以上
	改善が見られなかった(5.7ポイント減) <small>※現状値=市民の食育に関するアンケート調査(令和2年度)</small>		
評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「関心がある」は、男性(61%)より女性(80%)の割合が高い</li> <li>・年代別の「関心がある」割合は、30代(81.6%)が最も高く、次いで40代(76.8%)、50代・60代(いずれも74.1%)の順となっている</li> <li>・70代以上は、他の世代に比べ、「食育」という言葉を知らない(20.0%)割合が高い</li> </ul>		

主な事業・施策 (抜粋)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域と連携した食育推進(公民館で食育をテーマとした学習など)</li> <li>・子育て支援事業(未就学児の保護者を対象とした料理講習会)</li> <li>・食に関する情報提供(保育所へ「食育だより」を配布)</li> <li>・子育てサロン・サークル等での母子教育(食習慣についての健康教育)</li> <li>・食育月間等でのイベント・パネル展</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食育=こども、というイメージが強く、おとなが自分事として捉えられていない</li> <li>・平日日中に行う事業は、若い世代へのアプローチが難しい</li> <li>・インターネットやSNSを活用した啓発は、広く多くの市民へ波及効果が見込める一方で、個々への浸透は表面的である</li> </ul>
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食育は、生きるうえで全ての世代を通じて必要であることを、引き続き粘り強く啓発する</li> <li>・こどもの食育だけでなく、おとなにも通じる啓発・情報提供を行う</li> <li>・大学等と連携し、若い世代に対する効果的な啓発方法を模索する</li> <li>・インターネットやSNSを活用した啓発と個々へ深くアプローチできる方法との併用を検討する</li> </ul>

目指す姿	充実した朝食を毎日食べている
------	----------------

具体的な目標値	②朝食を欠食する市民の割合(小学生)		
成果指標等	策定時 (平成27年度)	現状値 (令和元年)	目標値 (令和2年度)
	3.6%	6.6%	0%
	改善が見られなかった(3.0ポイント増) <small>※現状値=全国学力・学習状況調査(令和元年)</small>		
具体的な目標値	③朝食を欠食する市民の割合(中学生)		
成果指標等	策定時 (平成27年度)	現状値 (令和元年)	目標値 (令和2年度)
	5.6%	7.9%	0%
	改善が見られなかった(2.3ポイント増) <small>※現状値=全国学力・学習状況調査(令和元年)</small>		
具体的な目標値	④朝食を欠食する市民の割合(20~30歳代)		
成果指標等	策定時 (平成27年度)	現状値 (令和2年度)	目標値 (令和2年度)
	27.5%	26.8%	18%以下
	策定時の値に比べて改善を示した(0.7ポイント減) <small>※現状値=市民の食育に関するアンケート調査(令和2年度)</small>		
評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年齢が高いほど「ほとんど毎日食べる」の割合は高く、「ほとんど食べない」は低くなる傾向がある</li> <li>・学生は「ほとんど毎日食べる」が5割を下回り(48.3%)、「ほとんど食べない」(26.7%)は他の職業に比べて高い割合となっている</li> </ul>		

主な事業・施策 (抜粋)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中学生を対象にした朝食喫食調査及び指導</li> <li>・福岡市地下鉄駅構内放送を活用した啓発</li> <li>・各種料理教室(青年期向け、成人期向け、親と子、学齢期の保護者など)</li> <li>・市内大学の学生へメルマガの配信</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝食を欠食する理由(小学生)は「食欲がない」が最も多く、次いで「食べる時間がない」となっている</li> <li>・若い世代にとっては、朝ごはんの優先順位が低い(寝る時間、手間)</li> </ul>
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中学校においては、朝食のよさを理解させる食の授業を継続すると共に、保護者に対しては食育だより等の啓発をはじめ、様々な機会を通じて、家庭での生活習慣について考えさせる場面づくりを行っていく</li> <li>・栄養バランスなど、望ましい朝食のあり方について引き続き啓発しつつ、20~30歳代に対しては、朝食をとる工夫として、「自宅」にこだわらず、通勤通学中に購入して会社や学校で食べたり、近くの飲食店を利用したりと、ライフスタイルにあった方法についても提案する</li> </ul>

目指す姿	バランスのよい食事をとっている
------	-----------------

具体的な目標値	⑤主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日食べている市民の割合								
成果指標等	<table border="1"> <tr> <th>策定時 (平成27年度)</th> <th>現状値 (令和2年度)</th> <th>目標値 (令和2年度)</th> </tr> <tr> <td>43.9%</td> <td>43.1%</td> <td>55%以上</td> </tr> </table>	策定時 (平成27年度)	現状値 (令和2年度)	目標値 (令和2年度)	43.9%	43.1%	55%以上	<p>改善が見られなかった(0.8ポイント減)</p> <p style="text-align: right;">※現状値=市民の食育に関するアンケート調査(令和2年度)</p>	
策定時 (平成27年度)	現状値 (令和2年度)	目標値 (令和2年度)							
43.9%	43.1%	55%以上							
具体的な目標値	⑥主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日食べている市民の割合(20～30歳代)								
成果指標等	<table border="1"> <tr> <th>策定時 (平成27年度)</th> <th>現状値 (令和2年度)</th> <th>目標値 (令和2年度)</th> </tr> <tr> <td>25.9%</td> <td>29.0%</td> <td>38%以上</td> </tr> </table>	策定時 (平成27年度)	現状値 (令和2年度)	目標値 (令和2年度)	25.9%	29.0%	38%以上	<p>策定時の値に比べて改善を示した(3.1ポイント増)</p> <p style="text-align: right;">※現状値=市民の食育に関するアンケート調査(令和2年度)</p>	
策定時 (平成27年度)	現状値 (令和2年度)	目標値 (令和2年度)							
25.9%	29.0%	38%以上							
具体的な目標値	⑦主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上食べるのが週に3日以下の市民の割合(70歳以上)								
成果指標等	<table border="1"> <tr> <th>策定時 (平成27年度)</th> <th>現状値 (令和2年度)</th> <th>目標値 (令和2年度)</th> </tr> <tr> <td>15.8%</td> <td>19.0%</td> <td>10%以下</td> </tr> </table>	策定時 (平成27年度)	現状値 (令和2年度)	目標値 (令和2年度)	15.8%	19.0%	10%以下	<p>改善が見られなかった(3.2ポイント増)</p> <p style="text-align: right;">※現状値=市民の食育に関するアンケート調査(令和2年度)</p>	
策定時 (平成27年度)	現状値 (令和2年度)	目標値 (令和2年度)							
15.8%	19.0%	10%以下							
評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年齢が高いほど「主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上食べることがほぼ毎日」である割合が高い</li> <li>・主食・主菜・副菜をそろえて食べることができない理由について、「手間が煩わしいから(52.5%)」の割合が最も高く、次いで「時間がないから(39.4%)」「量が多くなるから(21.7%)」「食費の余裕がないから(17.6%)」「外食が多いから(11.0%)」の順となっており、20代男性は「食費の余裕がないから(41.2%)」、30代女性は「時間がないから(69.2%)」、70代以上男性は「そろえる必要性を感じないから(18.5%)」で高い割合となっている</li> </ul>								

主な事業・施策 (抜粋)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種料理教室(青年期向け、成人期向け、高齢期向け、親と子など)</li> <li>・レシピ動画の配信</li> <li>・健康・食育パートナーズ(市内の飲食店を登録)</li> <li>・福岡市地下鉄駅構内放送</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ライフステージによって、主食・主菜・副菜をそろえて食べることができない理由が異なる。</li> <li>・平日日中に行う事業は、若い世代へのアプローチが難しい</li> <li>・インターネットやSNSを活用した啓発は、広く多くの市民へ波及効果が見込める一方で、個々への浸透は表面的である</li> </ul>

今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"><li>・無関心層やライフステージに応じたアプローチの方法を工夫する</li><li>・大学等と連携し、若い世代に対する効果的な啓発方法を模索する</li><li>・インターネットやSNSを活用した啓発と個々へ深くアプローチできる方法との併用を検討する</li></ul>
--------	--

目指す姿	生活習慣病の予防や改善のために、食生活に気をつけ、実践している
------	---------------------------------

具体的な目標値	⑧生活習慣病の予防のために、ふだんから食生活に気をつけ実践している市民の割合		
成果指標等	策定時 (平成27年度)	現状値 (令和2年度)	目標値 (令和2年度)
	71.8%	72.2%	77%以上
策定時の値に比べて改善を示した(0.4ポイント増) ※現状値=市民の食育に関するアンケート調査(令和2年度)			
具体的な目標値	⑨生活習慣病の予防のために、ふだんから食生活に気をつけ実践している市民の割合(30~40歳代)		
成果指標等	策定時 (平成27年度)	現状値 (令和2年度)	目標値 (令和2年度)
	62.6%	66.1%	68%以上
策定時の値に比べて改善を示した(3.5ポイント増) ※現状値=市民の食育に関するアンケート調査(令和2年度)			
評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年齢別にみると、すべての項目で年齢が高いほど「ふだんから食生活に気をつけ実践している」の割合が高い傾向にある</li> <li>・実践の内容については、「野菜をたくさん食べるようにしている(81%)」の割合が最も高く、以下、「食べ過ぎないようにしている(72.8%)」、「塩分をとり過ぎないようにしている(64.2%)」、「甘いものをとり過ぎないようにしている(62.8%)」の順となっている。</li> </ul>		

主な事業・施策 (抜粋)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マタニティスクールでの食生活についての講話</li> <li>・保健所や公民館等において生活習慣病に関する健康教育</li> <li>・会社員のための健康情報定期便</li> <li>・ヘルシー和カフェ(生活習慣病予防に関する講演会の参加者への啓発)</li> <li>・レシピ動画の配信</li> <li>・各種料理教室(青年期向け、成人期向け、高齢期向けなど)</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平日日中に行う事業は、就労者へのアプローチが難しい</li> <li>・インターネットやSNSを活用した啓発は、広く多くの市民へ波及効果が見込める一方で、個々への浸透は表面的である</li> </ul>
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業等と連携し、就労者に対する効果的な啓発方法を模索する</li> <li>・インターネットやSNSを活用した啓発と個々へ深くアプローチできる方法との併用を検討する</li> </ul>

目指す姿	食塩の取り過ぎに気をつけ、実践している
------	---------------------

具体的な目標値	⑩食塩を取り過ぎないように気をつけ、実践している市民の割合		
成果指標等	策定時 (平成27年度)	現状値 (令和2年度)	目標値 (令和2年度)
	63.6%	64.2%	70%以上
	策定時の値に比べて改善を示した(0.6ポイント増) ※現状値=市民の食育に関するアンケート調査(令和2年度)		
評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・男性(56.5%)よりも、女性(69.4%)の方が「食塩の取り過ぎに気をつけ、実践している」割合が高い</li> <li>・年齢が高いほど「食塩の取り過ぎに気をつけ、実践している」割合が高い</li> </ul>		

主な事業・施策 (抜粋)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学と連携した食育講演会</li> <li>・マタニティスクールでの食生活についての講話</li> <li>・介護予防事業の中での食生活についての講話</li> <li>・レシピ動画の配信</li> <li>・各種料理教室(青年期向け、成人期向け、高齢期向けなど)</li> <li>・市役所ロビーや各区保健所で行う食育イベント、パネル展</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平日日中に行う事業は、就労者や学生へのアプローチが難しい</li> <li>・インターネットやSNSを活用した啓発は、広く多くの市民へ波及効果が見込める一方で、個々への浸透は表面的である</li> </ul>
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業、大学等と連携し、就労者や学生に対する効果的な啓発方法を模索する</li> <li>・インターネットやSNSを活用した啓発と個々へ深くアプローチできる方法との併用を検討する</li> </ul>

目指す姿	よく噛んで食べている
------	------------

具体的な目標値	①よく噛んで食べる市民の割合		
成果指標等	策定時 (平成27年度)	現状値 (令和2年度)	目標値 (令和2年度)
	48.3%	54.4%	54%以上
	目標値に達した(6.1ポイント増) <small>※現状値=市民の食育に関するアンケート調査(令和2年度)</small>		
評価	・「よく噛んでいる」割合は、20～60代は同程度(48.2～54.7%)であり、70代以上(62.7%)は最も高い ・食事の速さについて「ゆっくり」である人は、「よく噛んでいる」「どちらかといえばよく噛んでいる」割合が高く、「早い」人は、「よく噛んでいない」「どちらかといえばよく噛んでいない」割合が高い。		

主な事業・施策 (抜粋)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レシピ動画の配信</li> <li>・各種料理教室(青年期向け、成人期向け、高齢期向けなど)</li> <li>・福岡市健康づくり月間に各区保健所に設置する食育推進コーナー</li> <li>・食育イベントでの歯科口腔保健に関する啓発</li> <li>・歯科講演会</li> <li>・お口の健康サポーター養成教室</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講演会や講座への参加者数が少ない</li> <li>・歯科口腔保健に関する意識が低い</li> </ul>
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各関係団体と連携し、新しい生活様式への対応により参加者数増に取り組むとともに、啓発コンテンツの充実等により訴求力の向上を図る</li> </ul>

目指す姿	食の安全に関する正しい知識を持ち、実践している
------	-------------------------

具体的な目標値	⑫食の安全に関する正しい知識を持ち、実践している市民の割合		
成果指標等	策定時 (平成27年度)	現状値 (令和2年度)	目標値 (令和2年度)
	93.7%	94.0%	95%以上
策定時の値に比べて改善を示した(0.3ポイント増) ※現状値=市民の食育に関するアンケート調査(令和2年度)			
評価	<p>・「実践している」取り組み内容については「生の状態や加熱が不十分な状態で肉を食べない(94.5%)」が最も多く、次いで「食品を買うときや食べる時に消費期限など容器包装に記載されている表示を確認する(93.2%)」、「食事の前に、しっかりと手を洗うこと(90.9%)」などの順となっている。</p>		

主な事業・施策 (抜粋)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食品衛生月間行事における食中毒予防の啓発</li> <li>・学園祭や地域でバザー、模擬店出店者を対象とした講習会</li> <li>・食の安全安心に関する講習会</li> <li>・手の洗い残しゼロチャレンジ(正しい手洗い体験)</li> <li>・食肉の生食の危険性を訴えるパンフレットの配布</li> <li>・南区ため蔵食ゼミ(体験型講座・食品関連施設見学・講演会)</li> </ul>
課題	<p>・食の安全に関する正しい知識を、リスクコミュニケーション事業や食品衛生月間行事などの様々な機会を捉えて市民に情報提供しているが、立場や経験によって、知識に差がある</p>
今後の方向性	<p>・SNS やホームページ等の様々な広報媒体を活用して、食品の安全に関する正しい知識を引き続き積極的に発信する</p>

目指す姿

福岡産のものを積極的に利用している

具体的な目標値	⑬市内産、県内産の農林水産物を買うようにしている市民の割合		
成果指標等	策定時 (平成27年度)	現状値 (令和2年度)	目標値 (令和2年度)
	70.2%	73.7%	77%以上
	策定時の値に比べて改善を示した(3.5ポイント増) ※現状値=市民の食育に関するアンケート調査(令和2年度)		
具体的な目標値	⑭学校給食における市内産農林水産物利用割合(米)		
成果指標等	策定時 (平成27年度)	現状値 (令和2年度)	目標値 (令和2年度)
	21.9%	9.1%	25%
	改善が見られなかった(12.8ポイント減)		
具体的な目標値	⑮学校給食における市内産農林水産物利用割合(野菜主要品目)		
成果指標等	策定時 (平成27年度)	現状値 (令和2年度)	目標値 (令和2年度)
	31.1%	31.4%	33%
	策定時の値に比べて改善を示した(0.3ポイント増)		
具体的な目標値	⑯学校給食における市内産農林水産物利用割合(農畜産加工品)		
成果指標等	策定時 (平成27年度)	現状値 (令和2年度)	目標値 (令和2年度)
	4品	9品	7品
	目標値に達した(5品増)		
具体的な目標値	⑰学校給食における市内産農林水産物利用割合(水産物・加工品含む)		
成果指標等	策定時 (平成27年度)	現状値 (令和2年度)	目標値 (令和2年度)
	1品	10品	2品
	目標値に達した(9品増)		
具体的な目標値	⑱「ふくおかさん家のうまかもん優先利用事業者」登録数		
成果指標等	策定時 (平成27年度)	現状値 (令和2年度)	目標値 (令和2年度)
	39	823	1,300
	策定時の値に比べて改善を示した(784事業者増)		
評価	<p>・市内産、県内産の農林水産物を買うようにしている割合の内訳は、「いつも買っている(9%)」、「できるだけ買うようにしている(64.7%)」となっている</p> <p>・市内産や県内産のものを買わない理由の割合は、「市内産、県内産かどうかわからない(31.9%)」が最も高く、次いで「欲しいときに市内産、県内産のものが無い(27.2%)」、「よく利用する店で売っていない</p>		

	<p>(23.9%)」、「価格が高い(15.2%)」「どこで入手できるのかわからない(15.2%)の順となっている</p> <p>・学校給食における市内産農林水産物利用割合(米)については、令和元年度の数値では、目標値を達成していた(29.5%)が、令2年度については、天候等による不作により12.8ポイント減となった</p>
--	---

<p>主な事業・施策 (抜粋)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・産地見学と料理教室</li> <li>・ベジフル感謝祭</li> <li>・魚料理教室</li> <li>・長浜鮮魚市場市民感謝デー</li> </ul>
<p>課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内産野菜の中には給食の献立に使用しづらいものがある</li> <li>・給食として提供したい時期に市内での生産量が少ない場合がある</li> <li>・「ふくおかさん家のうまかもん」事業者認定事業の認知度向上</li> </ul>
<p>今後の方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校給食地産地消推進ワーキンググループを活用し、関係機関と連携しながら、市内産農産物を使用した加工品の利用や、農産物の生産計画と給食の献立計画を調整するなどし、より一層の地産地消を推進する</li> <li>・ふくおかさん家のうまかもんを販売・提供する認定事業者の効果的なPRについて検討し、取組みを実施する</li> </ul>

目指す姿	農林漁業体験をしたことがある
------	----------------

具体的な目標値	⑨農林漁業体験をしたことがある市民(世帯)の割合		
成果指標等	策定時 (平成27年度)	現状値 (令和2年度)	目標値 (令和2年度)
	18.6%	19.3%	25%以上
	策定時の値に比べて改善を示した(0.7ポイント増) <small>※現状値=市民の食育に関するアンケート調査(令和2年度)</small>		
評価	・居住区別にみると、「家族の中に農業体験をしたことがある人がいる」割合は、早良区(24.5%)が最も高く、中央区(16.5%)が最も低い		

主な事業・施策 (抜粋)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学童菜園事業</li> <li>・酪農体験スクール(※令和元年までで事業終了)</li> <li>・親子 食と農の体験教室</li> <li>・漁業体験(漁船でGo!)</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漁業者の減少や高齢化により、対応できる漁業者がいなくなってきている</li> <li>・学童菜園事業では、希望校の近くに生産者がいない場合など、地域によっては生産者の確保が困難な場合もある</li> <li>・イベント1回あたりの参加可能人数が少数であるため、体験する人数が限定的となる</li> </ul>
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実施回数を調整するなど、生産者や漁業者の確保に努め、引続き体験の機会を提供する</li> <li>・酪農体験スクールは県内の農家数減少に伴い、受入農家の確保が困難になったため事業終了としたが、酪農関連施設の見学など酪農への理解を深めるための実施内容を検討していく</li> <li>・イベント参加者以外への広報手法も含めて市内農業への理解を深めるための実施内容を検討していく</li> </ul>

目指す姿	環境に配慮した食生活を送っている
------	------------------

具体的な目標値	⑳食品ロスを軽減するために何らかの取組みを行っている市民の割合		
成果指標等	策定時 (平成27年度)	現状値 (令和2年度)	目標値 (令和2年度)
	62.4%	91.9%	80%以上
	<p>目標値に達した(29.5ポイント増)</p> <p style="text-align: right;"><small>※現状値=市民の食育に関するアンケート調査(令和2年度)</small></p>		
評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・何らかの取組みを行っていることについて「残さず食べる(65.4%)」の割合が最も高く、次いで「賞味期限を過ぎても捨てるのではなく自分で食べられるか判断する(65.2%)」、「冷凍保存を活用する(62%)」、「食材を使い切る(59.1%)」、「日頃から冷蔵庫などの食材の種類・量・期限表示を確認する(58.2%)」などの順となっている</li> <li>・性別にみると「残さず食べる」の割合は、男性(71.5%)の方が女性(61.7%)よりも高くなっているが、他はいずれも女性の方が高い割合となっている</li> </ul>		
主な事業・施策 (抜粋)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3R推進事業(家庭での食品ロス削減)</li> <li>・食に関する情報提供(保育所へ「食育だより」を配布)</li> <li>・食育イベントやパネル展において啓発</li> </ul>		
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食品ロスの認知度は向上しているが、食品廃棄を行っているとの回答が4割ある</li> <li>・周知啓発が主な事業になるため、実際に行動変容に繋がったか削減効果の測定が難しい</li> </ul>		
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭における食品廃棄物の発生抑制を図るため、購入、消費、廃棄の項目において具体的な削減行動への誘導を図り、削減行動、及び効果を見える化する</li> <li>・未利用食品の有効活用を目的に、フードバンク団体と連携を図る</li> <li>・出前講座や10月の食品ロス削減月間などの機会を捉えた啓発を継続して実施していく</li> <li>・食育や防災機関と連携を図り、食品ロス問題の解決に向け消費者に必要な情報を提供する</li> </ul>		

目指す姿	行事食や郷土料理を取り入れ、次世代に伝えている
------	-------------------------

具体的な目標値	②ふだんの食事に行事食や郷土料理を取り入れている市民の割合		
成果指標等	策定時 (平成27年度)	現状値 (令和2年度)	目標値 (令和2年度)
	58.0%	62.2%	62%以上
	<p>目標値に達した(4.2ポイント増)</p> <p style="text-align: right;"><small>※現状値=市民の食育に関するアンケート調査(令和2年度)</small></p>		
評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食育への関心度別にみると、「取り入れている」割合は、関心がある人は67.2%、関心がない人は46.0%と、21.2ポイントの開きがある</li> <li>・行事食や郷土料理を取り入れている単身世帯の割合は5割以下(43.0%)、親子3世代世帯の割合は75.0%となっている</li> </ul>		

主な事業・施策 (抜粋)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食に関する情報提供(保育所へ「食育だより」を配布)</li> <li>・各種料理教室(成人期以上、親と子など)</li> <li>・市役所ロビーや各区保健所で行う食育イベント、パネル展</li> <li>・どんたくにおける食文化の継承(食を楽しむ機会や食に関する体験の場の提供)</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単身世帯では、他の家族構成と比べ、行事食や郷土料理を作ったり食べたりしている割合が低い</li> <li>・行事食や郷土料理であることを知らないことも多い</li> </ul>
今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手軽に行事食や郷土料理を取り入れることができる場所や機会を増やす</li> <li>・行事食や郷土料理の情報提供及び普及啓発を行う</li> </ul>